

報 告

第32回医学情報サービス研究大会 (MIS32) 参加記

谷口裕美子

1. はじめに

第32回医学情報サービス研究大会は2015年7月18日から2日間にわたって、北海道大学学術交流会館で開催された。北海道での開催は、第3回札幌大会、第17回札幌大会に次いで3回目となる。参加者数は189名。台風11号の影響で交通機関に乱れが出て、参加者にも影響したと聞く。私もJRが運休となりハラハラしながら南海電車で向かい、関西空港発の飛行機に無事乗れたのは幸いであった。札幌の天候もすっきりせず、小雨が降ったりやんだりする中での大会となった。

2. MISとは

MISとは「meeting on Medical Information Services=医学情報サービス研究大会」のこと。医学情報サービス関係の研究と発表の場で、大会実行委員（有志）と参加者によるインフォーマルで手作りの研究大会である。MISの理念「Learning from each other!」のもと、参加者が質問や意見を交えて互いに学べる場となっている。

実行委員会のご当地ならではのプログラムや懇親会を企画し、ロゴや記念グッズを作成する。まさに手作りの大会だ。今年は北海道大学が会場ということで、ポプラ並木とクラーク博士をデザインした緑のロゴが素晴らしかった。

3. プログラム

大会は記念講演、口頭発表、ポスターセッ

ション、プロダクトエキシビジョンからなっている。

記念講演は高田礼人氏の「エボラウイルス研究の現状と展望」だった。ウイルスの表面の蛋白質が細胞に結合して侵入することと、それを阻害するための抗体についてわかりやすく説明していただいた。先生が懇親会のプレゼント用に持参してくださったエボラの携帯ストラップは、表面を黄色と黒と赤のつぶつぶで端的に表現されており、エボラに対する理解と親しみが湧くデザインになっていた。これと対で抗体のストラップが出たら完璧かもしれない。

口頭発表は15の演題があり、学術情報の収集と分析、図書館サービス、情報の電子化・図書館ネットワークと3つのテーマに区切られていたため、それぞれの内容が頭に入りやすくなっていた。今大会は近畿病院図書室協議会から共同リポジトリ“KINTORE”について藤原純子氏の口頭発表もあった。発表準備や当日発表に力を尽くしてくださった藤原さんに心から謝意を表す。構築までの500日、勉強会や研修会、ソフトウェアやサーバや業者を決めるまでいろいろあったことを思い返しながらかいた。ここまでたどり着くまでに協力くださった皆さまに感謝し、ここから発展させていくために頑張らねばと思った。

ポスターセッションは全部で8つあった。「病院図書室ネットワークにおける総合目録の役割と今後」の総合目録の可能性の考察が興味深かった。別の媒体と組み合わせての運用や、リポジトリへのリンクなど、自給率の向上とともに

に外部からの利用にも繋がればよいと思う。「病院図書室担当者による自作業務支援データベースシステムの1例」の自作のデータベース構築も大変勉強になった。FileMaker Proでの構築のため、ソフトを購入し、バージョンアップされるたび買い替えが必要など、予算のない施設での導入は難しい。しかし同じようなデータベースをMicrosoft Accessで構築しランタイム版で配布したら、無料で配布するのも可能かと思った。当院にMicrosoft Accessはないので作るのには難しい。

プロダクトエキシビジョンは企業のプロダクトレビューと展示があった。企業の最新の動向を知るとともに、実際に話しながら説明を受けると新たな発見もあった。

企業以外の展示では、山崎茂明先生と私たち近畿病院図書室が参加した。山崎先生は医学情報サービス大会の初期から代表幹事を務めておられる方で、研究評価・研究不正の専門家。『パブリッシュ・オア・ペリッシュー科学者の発表倫理』は名著。先生の著書を御自ら展示販売されていた。病図協は会誌や出版物を展示販売。当協議会発行の『系統的文献検索概説：看護研究者・医療研究者のための』も素晴らしい本で、当院の先生からも「医局用に一冊欲しい」と一冊ご購入いただいたほど。MISのような医学関係の人が集う場所でこれらの本がより多くの人目に触れる機会になればよいと思った。

4. 近畿病院図書室協議会として

前回のMIS31は一般参加の目線であったが、今回はブースの設営やポスター展示やリーフレット配布などすることで、病図協の一員としての参加者目線になれた。幹事の皆さまが毎年布教宣伝活動されていることにも気づけた。

大会のご好意でポスターセッションに混ざって共同リポジトリ“KINTORE”のポスター設置とリーフレット配布もさせていただいた。リポジトリメンバーと幹事でオリジナルTシャツを実費で作成し、当日はみんなを着た。モンベルで作っただけあって着心地は抜群であった。おそろいのTシャツは一体感や団結力が生まれ、人目も引いてよかった。

余談だが長机に本を並べたりポスターを貼ったりするのに既視感があると思ったら、学生時代のサークル活動での同人誌即売会の雰囲気似ていた。なんとも懐かしい。

5. さいごに

多忙な本務の傍ら企画運営に携われた実行委員の皆さまに心からお礼を申し上げます。

今回は2016年7月2日(土)、3日(日)に長崎で開催される。そしてその次の2017年には大阪で開催されることも決定している。

長崎の参加は難しいかもしれないが、大阪は病図協の加盟機関も多いため、より多くの方が参加し互いの学びになることを期待している。